中国・苗族の刺繍 魅せられ20年

愛知の夫婦 都内で紹介

祭りの準備で、銀の飾りをつけてもらう少女＝佐藤雅彦さん撮影

中国の少数民族、苗族の細密な刺繍を紹介する展覧会が東京都世田谷区で開かれている。晴れ着や赤ん坊を背負う背帯など約60点は、刺繍に魅せられた愛知県の夫妻が集めた。苗族が暮らす土地でも失われつつある手仕事の伝統を鮮やかに伝える。

苗族は中国南西部の貴州省に多く住む。山あいの村で、身にまとうものも自給自足。綿や蚕を育てて糸を紡ぎ、布を織って服を仕立ててきた。

「邪悪なものは布目から入ってくる」という言い伝えがあり、子どもの服や晴れ着に細かい針目で丁寧に刺繍をほどこす。独自の文字をもたない苗族は、刺繍が伝説や信仰を伝えるすべだったともされる。

展示された苗族の民族衣装の前に立つ佐藤さん夫妻＝東京都世田谷区の「生活工房ギャラリー」

愛知県常滑市の佐藤雅彦さん(57)、瑞代さん(49)夫妻は1990年代後半から2007年まで中国に滞在、刺繍のとりこになった。苗族の村を何度も訪れ、交流を深めた。高度成長と開発の波が貴州省にも及んで、文化の伝承が難しくなっていた。

2人は01年、貧しい家庭の子が教育を受けながら刺繍も学べる学校を同省に開校。現在は苗族自身が運営、文化を伝える施設になっている。

夫妻の手元には千点以上の品々が集まった。常滑市の自宅に12年「苗族刺繍博物館」を設け、完全予約制で公開している。

11日に始まった「生活工房ギャラリー」（世田谷区太子堂4丁目）での「ミャオ族の刺繍と暮らし展」では、約60点を展示。館外でこれほど大規模にコレクションの民族衣装を紹介するのは初めてという。

館長を務める瑞代さんは「夫は会社員で私は主婦。ただただ愛して集めてきました。人の手が生み出すものの力強さ・美しさを感じ、深い宇宙にひたっていただけたら」と話す。

会期は12月10日まで（月曜休み）、入場無料。（大村美香）

地球防衛家のヒトビト

全府立高を対象 髪色指導の調査

大阪府

大阪府の向井正博教育長は17日の定例会見で、すべての府立高校を対象に生徒の髪の色をめぐる指導についてアンケートを実施していることを明らかにした。生まれつき茶色い髪を黒く染めるよう教諭らから指導され不登校になったとして府立高の女子生徒が府を相手に訴訟を起こしたことをふまえ、各校の指導実態を把握するのが目的という。

府教育庁によると対象は154校。髪を染めている生徒への対応のほか、校則に髪の色は黒に限るといった規定があるかや、地毛が黒くない生徒に「登録」や「証明」などの手続きを求めているかなども尋ねる。集約後に公表するという。

向井教育長は、原告となった生徒について「生まれつき黒髪であったということを前提に学校は指導している」とし、生徒の本来の髪は黒色だったとの見解を示した。訴訟の中で生徒側が「金髪の外国人留学生でも黒染めをさせると学校側から説明を受けていた」と主張した点については、「校長はそのような指導はしていないと述べたと聞いている」と否定した。

ホームレス男性 殺害容疑で逮捕

葛飾 酒飲み口論か

ホームレスの男性をハンマーで殴って殺害したとして、警視庁は18日、住所不定、無職神山淳容疑者(42)を殺人容疑で逮捕し、発表した。「脅すつもりでハンマーを使ったが、殺すつもりはなかった」と、殺意を否認しているという。

葛飾署によると、神山容疑者は15日午後5時50分ごろ、東京都葛飾区四つ木1丁目の荒川河川敷の橋の下で、無職畠山幸男さん(61)の頭をハンマーで殴って殺害した疑いがある。

2人は現場近くで暮らすホームレスで、一緒に酒を飲んでいて口論になり、神山容疑者がハンマーを持ち出したためもみ合いになったという。畠山さんは頭のほか、胸や背中にも殴られたような痕があった。

確かな情報をネットでも Astand 朝日新聞が有料で提供する情報サービス配信サイト。価値あるコンテンツをネットでも

星の子 今村夏子 ■定価1,512円(税込) お求めは書店、ASA（朝日新聞販売所）、朝日新聞出版ホームページでどうぞ

ニュースEX au携帯に情報配信